

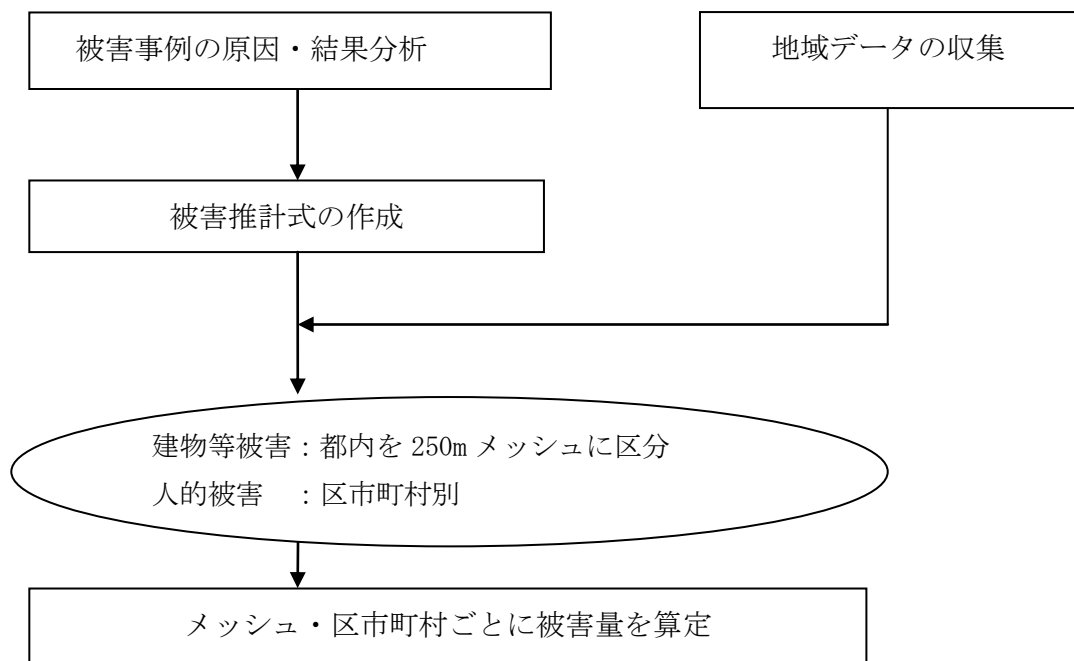
IV. 被害想定手法

IV-1. 想定手法の概要

1. 想定手法の流れ

過去の地震被害のデータに基づき、被害項目ごとに被害の原因と結果の関係を分析し、被害推計式を作成する。

次に、地域の特性を詳細に分析するために、建物被害については都内を 250m×250mメッシュに区分し（東京都全体で約 28,000 メッシュ）、各項目につきその地域データを被害推計式に投入して、メッシュごとの被害量を算出する。人的被害については、区市町村別に算出する。



2. 各想定項目の被害の推計の流れ

地域状況をメッシュごとに調査分類した後、それぞれに想定地震のゆれを加え、地盤のゆれやそれに伴う液状化を推計する。

次に、ゆれによる被害と液状化による被害に分けて、建物被害、火災被害、ライフライン被害、交通被害等を推計する。

さらに、建物被害、火災被害、交通被害等から区市町村別に死傷者数等を推計し、建物被害及び上水道被害等からは避難者数を推計する。

